

秋田工業高等専門学校	開講年度	令和02年度(2020年度)	授業科目	機械システム概論
科目基礎情報				
科目番号	0009	科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	創造システム工学科(電気エネルギー・システムコース)	対象学年	4	
開設期	前期	週時間数	前期:2	
教科書/教材	「専門基礎ライブラリー 機械設計」, 柳田秀記, 兼重明宏, 西村太志, 他, 実教出版			
担当教員	今田 良徳			

### 到達目標

- 機械装置に使用される材料の種類や性質を説明することができる。
- 材料の加工法について説明できる。
- 簡単な機械装置の部品に加わる力を説明でき、その力の大きさを計算できる。
- ねじの基礎を理解し、適切なねじを選択できる。

### ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	機械装置に使用される素材の特徴を考慮し、使用範囲を適切に判断できる。	機械装置に使用される素材の特徴を説明できる。	機械装置に使用される素材の特徴を説明できない。
評価項目2	加工法の特徴を理解し、加工部品の形状から適切に加工方法を選択できる。	各種の機械加工法の特徴を説明できる。	加工法の特徴を説明できない。
評価項目3	自らの力で機械部品に加わる力の種類を適切に判断でき、許容応力から寸法を決定できる。	機械部品に加わる力の種類を適切に判断でき、許容応力から寸法を決定できる。	機械部品に加わる力の種類が判断できない。
評価項目4	ねじの使用状態等から使用すべきねじを自らの力で選択でき、使用すべき規格や呼びを決定できる。	ねじの種類とその使用方法が説明でき、ねじの規格や呼びを決定できる。	ねじの種類及びその使用方法が説明できない。

### 学科の到達目標項目との関係

#### 教育方法等

概要	機械工学を専門としない学生を対象として行う。 機械工学の概要と機械システムに関連する機械材料の種類、機械加工法、材料に加わる力、材料および部品の締結法等に関する基礎的な知識を修得する。
授業の進め方・方法	講義形式で行う。 この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習として課題レポート等を実施する。 試験結果が合格点に達しない場合、再試験を行うことがある。
注意点	合格点は60点である。成績は到達度試験(前期中間)80%, 課題レポート20%で評価する。 総合評価 = (到達度試験(前期中間) × 0.8 + 課題レポート × 0.2) (講義を受ける前) 予習をしっかりと行うこと。 (講義を受けた後) 復習をしっかりと行い、関連する事項を積極的に自学する様に心がけてほしい。 課題提出の期限を守ること。

### 授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週 授業ガイダンス 1. 機械および機械関連技術に関する基準・規格・規則①	授業の進め方と評価の仕方について説明する。 機械とは何かわかる。
		2週 1. 機械および機械関連技術に関する基準・規格・規則②	機械に用いられている基準・規格・規則について説明できる。
		3週 2. 機械材料の性質および特徴	機械材料の特徴を説明できる。
		4週 3. 機械加工法	機械加工法と加工機械の特徴を説明できる。
		5週 4. 材料の強さと剛性①	機械に生ずる荷重の種類が説明できる。 引張, 圧縮, せん断強さを理解し、それらに関係する計算ができる。
		6週 5. 材料の強さと剛性②	曲げ, ねじり強さを理解し、それらに関係する計算ができる。
		7週 6. ねじ	ねじの強度計算ができ、適切にねじを選択できる。
		8週 到達度試験(前期中間)	これまでに学習した内容の理解度を確認する。
2ndQ	9週 到達度試験の解説と解答	到達度試験の解説と解答、本授業のまとめ	
	10週		
	11週		
	12週		
	13週		
	14週		
	15週		
	16週		

### モデルカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他
総合評価割合	80	0	0	0	20
					100

知識の基本的理解	80	0	0	0	0	20	100
思考・推論・創造への適用力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0